

平成28年度 第1回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 平成28年7月1日(金) 午後2時～午後4時45分

場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数 21名

欠席委員数 5名

オブザーバー 2名

事務局 13名

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 事務局職員紹介
- 4 会議の公開について
- 5 議題 (1) 委員長・副委員長の選任について
(2) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
(3) 重点取組項目(地区部会エリア別)について
(4) 熊本地震派遣職員による現場報告
(5) 花見川区の高齢者の状況について
(6) スケジュールについて
(7) その他
- 6 閉会

【2】議事要旨

委員定数26名のうち、5名欠席を確認し開会した。

事務局より、委員紹介、事務局職員紹介に続き、会議の公開について説明があり、傍聴人の入室、会議録の作成、ホームページ及び推進協だより等への掲載のため、写真撮影、録音を行うことについて、また自治会等を通じ地域住民や公共の場に公開させていただく旨、了承を得た。(今回傍聴人1名。)

議題(1) 委員長・副委員長の選任について

事務局より、委員長・副委員長が選出されるまでの間、花見川保健福祉センター谷内田主査が進行を務めた。

委員長・副委員長の選出は委員の互選となるため、まず委員長の立候補・推薦を依頼したところ、金子委員より、委員長に原田委員を推薦する発言があった。他に意見はなく、諮ったところ異議なく承認された。

次に、副委員長について立候補・推薦を依頼したところ、鈴木幸正委員より、副委員長に金子委員を推薦する発言があった。他に意見はなく、諮ったところ異議なく承認された。

原田委員長・金子副委員長が就任挨拶を行った。

議題(2) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について

事務局より、資料1「取組み項目地区別一覧表」資料2「地域福祉の活動内容に関する情報提供用紙」をもとに花見川区医療・介護の多職種連携に関する活動を説明した。内容については実際に主催している吉松委員に多職種連携の会議の現状、在宅高齢者の介護の問題点について説明が行われた。

<質疑応答>

委 員 A : 千葉市には地域包括ケアシステム推進があるが、それと連携は行っているのか。

委 員 B : 包括ケアやあんしんケアセンターで地域での連携を開くべきだが、現状では固定された人の会議になってしまっている。また会議の参加者は現場に携わっていない者がほとんどのため、あまり進んでいない。千葉市のホームページを活用し、地域での支えを大切に行っていこうとしているところである。

委 員 A : 市の地域包括ケア推進課には会議には参加してもらっているのか。

委 員 B : 参加している。

毎回報告も行い、市のホームページにも掲載している。誰でも出席できる会議である。ぜひ参加してもらいたい。

委 員 C : 地域包括ケアに関連付けて総合事業を千葉市で行うと出たが、平成29年に延びたと聞いた。あんしんケアセンターの委員Dに聞きたい。

委 員 D : 市の方から具体的な経緯は聞いていないが、来年の4月に延期したことを聞いた。

委 員 長 : 何が延期したのか。

委 員 D : 総合事業が、介護保険の要支援1・2のサービス改正があることで、遅れている。市の方では秋頃に家族に連絡する予定である。また、連絡会も開くことを聞いている。

委 員 長 : 「地域包括ケアシステムの連携」で言われているのは医療・介護の連携であるが、その一環で委員Bが行っている会議があるのか。

委 員 B : 自主的に連携を行っているものである。主催は関係ない。

委 員 長 : 地域包括ケアシステムとは、医療・介護の連携で委員Bが自主的に行っている会議を指すのか。連携は公助の部分ではないのか。

委 員 B : 公助である。地域であまり活動を行っていないのが実態である。そのため在宅での介護が困難である。

委 員 長 : 市や国が行うものではないか。

委 員 B : 本来なら国や市が行う必要があるが、あまり進んでいないため行っている。

委 員 長 : 認知症の高齢者にはどのようなケアが必要であるか。

委 員 B : 民生委員の方に服薬管理をしてもらいたい。

委 員 長 : 難しい。徘徊高齢者の支援も難しい状態である。

委 員 B : ケースによって違うため、確かに難しい。

だが、服薬管理、車いすの移動等地域住民や民生委員の協力によって安心して高齢者が暮らしている例もある。

地域で困っている高齢者を探してもらいたい。そこでケアマネや民生委員に繋いで欲しい。そして協力して欲しい。

自治会や安心ケア合同の会議を行ってみることも大切ではないか。

委 員 長 : 難しいと思う。

委 員 B : 確かに難しい。しかし地域や自治会、あんしんケアセンターと話し合う場を設けることで問題点がピックアップできると思う。

- 委員長：問題点は出てきても、地域を巻き込むことは難しいと思う。
- 委員 B：若い人を巻き込んでみてはどうか。
- 委員長：若い人はいないから難しい。
- 委員 B：ぜひ会議には参加して協力してもらいたい。ケアマネとこの会議をコラボしてもらいたい。

議題（３）重点取組項目（地区部会エリア別）について

委員長より、資料２「地域福祉の活動内容に関する情報提供用紙」をもとに各地区部会の重点取組項目を行ったことを説明し、続いて資料３をもとに各部会長等より具体的な取組内容について説明があった。

<質疑応答>

- 副委員長：犢橋地区部会の見守り協力委員の募集とは具体的にどんな募集を行っているのか。
- 委員 E：現在、見守り協力委員は家族を含めて１４０人いる。見守られたい方に同時に見守りの協力もできるか用紙を配り、説明会を行ったうえで協力員になってもらう。
- １４０人は普段の数では多いが、災害時には必要になるので現在も募集を募っている状態である。
- 委員 B：幕張武石地区部会に質問だが、幕張６丁目だけではなく、範囲を広めてはどうか。
- 委員 C：担当地域が決まっている。他の地区部会を立ち上げる準備ができていない。
- 委員長：サロンの数はどれくらいあるのか。
- 委員 C：１つだけで、いきいきサロンがある。
- 委員長：何を行っているのか。
- 委員 C：クリスマス会などの季節行事を行っている。また、研修項目であんしんケアセンターと一緒に介護予防などの話し合いも行っている。
- 委員長：サロンを活用して積極的に活動してもらいたい。
- 委員長：犢橋地区部会の運営マニュアルはできているのか。
- 委員 F：まだである。今年までには運営委員会も開きたい。
- 委員 F：資料の作り方であるが、資料のデータが古い。資料を作成する際には事務局は気を付けて欲しい。
- 委員長：新しいのを提出してもらいたい。
- 委員 B：先ほどから高齢者を支えることは難しいと話したが、子どもたちを巻き込んでみてはどうか。子どもたちを巻き込めば大人も動く。若い人たちを巻き込むべきである。
- そのためには、花見川を活気のある街にしなければいけない。暮らしの街づくりで、花見川をどうしたら活気のある街になるのかを話してみてもどうか。
- たとえば花見川に若い人たちが集える場や観光名所を作るのはどうか。このような話をする機会はあるのか。

委員長：ない。

本当は花見川に隣接している町内理事会に頑張ってもらわなければいけないが、高齢化で若い人が少ない。まずは若い人を呼び込む必要がある。そのためには、道路の整備と若者が集まる環境を作るべきである。

委員 B：今いる若者だけでも活動に参加できないか。

委員長：難しい。主催する側が高齢化が深刻になっている。やりたくてもやれないのが現状である。

委員 G：避難所運営委員会のことだが、避難所を立ち上げるのは社会福祉協議会の仕事であるのかと問題になった。

例えば熊本の地震の時にも問題になったが、ボランティアの受け入れや確保、配置が普段できていないと災害が起きた時に機能しない。本来なら自治会の仕事である。民生委員に仕事を回してしまったこともあり、それも問題になってしまった。

これからのことは、市の方で何か言ってくるだろうと考えている。

委員 H：我々の地域では、社会福祉協議会としてはやっていないが、自主防災会組織というものがあり、自主防災会組織と自治会が組んでさまざまな防災活動を行っている。

委員長：避難所運営委員会だが、自治会ごとに避難する場所は決まっているのだから自治会主体で活動するのが良いのではないか。

自治会主体で動いた上で、地区部会で活動内容を報告するのが良いと思う。

委員 H：その通りである。

議題（４）熊本地震派遣職員による現場報告

事務局より、説明を行う職員の紹介を行い、５月に起きた熊本地震によって保健師が派遣され、その中で行った活動や感じたことについて説明があった。

熊本地震の特徴や概要を説明し、避難者の健康状態や衛生面の確認、安否確認を行ったことが説明された。

また資料に沿って避難所の現状を説明し、活動の中で地域住民との交流、高齢者や子どもの支援が重要であると説明された。

議題（５）花見川区の高齢者の状況について

事務局より、資料５「花見川区高齢者の現状について」をもとに花見川区の人口から高齢化率、人口の推移について説明があった。

<質疑応答>

委員長：高齢者というのは何歳からか。

事務局：６５歳以上のことを高齢者と呼ぶ。

委員長：７５歳からは何か変わるのか。

事務局：７５歳からは後期高齢者となる。

委員長：民生委員の高齢者実態調査が今年から７５歳以上になったが、問題はないのか。統計資料は６５歳以上からであって、独居の人もたくさんいるのではないか。

資料５の統計を町内会別に出すともっと高齢化率が大きくなると思う。

また、横戸台はこんなに高齢化率は大きいのか。

委 員 I : 子育て世代も多いが、団地にはやはり高齢者が多い。

また、最近は高齢者が入所するグループホームが多くなったのが要因ではないか。

委 員 長 : 高齢化の問題は花見川区だけではないと思うが、花見川区も深刻になってきている。このままでは高齢者だけになってしまうのではないか。

委 員 B : 花見川区は自然が多いし、魅力的である。近くに新都心もあり整備をすれば観光資源にもなる。若い人を巻き込めないのか。

委 員 長 : 整備をする前に北側の高齢化率が深刻である。また、整備をするには若い人とお金がかかる。市民だけでは難しい。行政の協力や予算がないと上手くいかないのではないか。

委 員 B : 高齢問題を考えるには、高齢者だけで考えるのは難しい。若い人を巻き込むことをやはり検討するべきではないか。

議題（６）スケジュールについて

事務局より、今年度は、年２回（７・２月）の実施を予定し、日程等の詳細は随時連絡すると説明した。

議題（７）その他

委員長より、他にないか質問したところなかった。

（議事終了）

事務局より、次回は２月の開催であることが伝えられ、原田委員長が閉会挨拶し、午後４時４５分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。